



NO. モエワ★カムイ 78

●モエワ・カムイとはアイヌ語で「エゾクヌキ」のことです。 NOV 2010

あさひやまどうぶつえしニュース
ASAHIYAMA ZOO NEWS

もくじ

ほくは、動物大使
その39 氷上のハンター
オジロワシ……………2.3

特集

あさひやま解体新書 その4
あさひやま水族館へ
ようこそ!……………4.5

こども牧場だより……………6

地球のお医者さん……………7

主なできごと……………8

編集後記……………8



オジロワシ
Haliaeetus Albicilla



ほくは、
動物大使

その39 氷上のハンター オジロワシ

オジロワシ

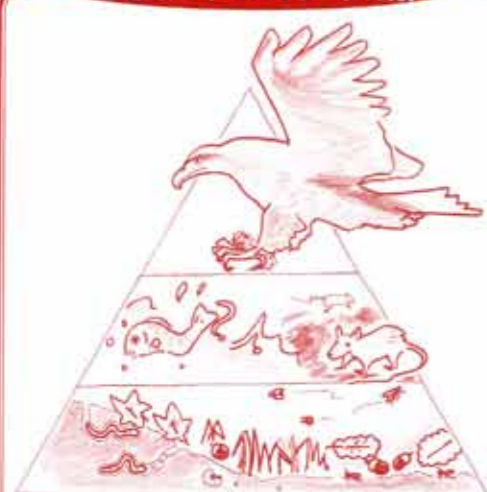
haliaeetus albicilla

ユーラシア大陸に広く分布し、日本では環境省により絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。日本でみられるオジロワシは、主にロシアの極東地域から秋ごろに飛来する。北海道や東北地方で越冬し、春には繁殖地ロシアへ渡っていく。北海道でも60~100つがいほどが繁殖している。

オジロワシの分布



生態系の中でのワシ・タカ類



ワシ・タカ類は生態系ピラミッドの頂点に立つ動物です。この頂点の動物を守っていくためには個体数を増やす努力だけではなく、生息環境や食料となる裾野の動物などがたくさん生息できる環境を保全していく必要があります。

目

猛禽類の視力は人の約8倍良いといわれている。これは単に人間が2.0なら猛禽類が16.0ということではなく、視細胞が人間の約8倍多いためより鮮明に見えるという意味。わかりやすく言うと人が100万画素のデジカメなら猛禽類は800万画素相当。

嘴

上嘴が下に向かって湾曲しているのが猛禽類の特徴。この鋭い嘴で厚い魚や動物の皮や肉を引きちぎって食べる。



食べ物

主に魚や鳥類、動物の死肉などを食べる。産卵のため遡上してきたサケや産卵を終えたサケの死骸、漁や漁港で捨てられる魚などを食べるが多い。

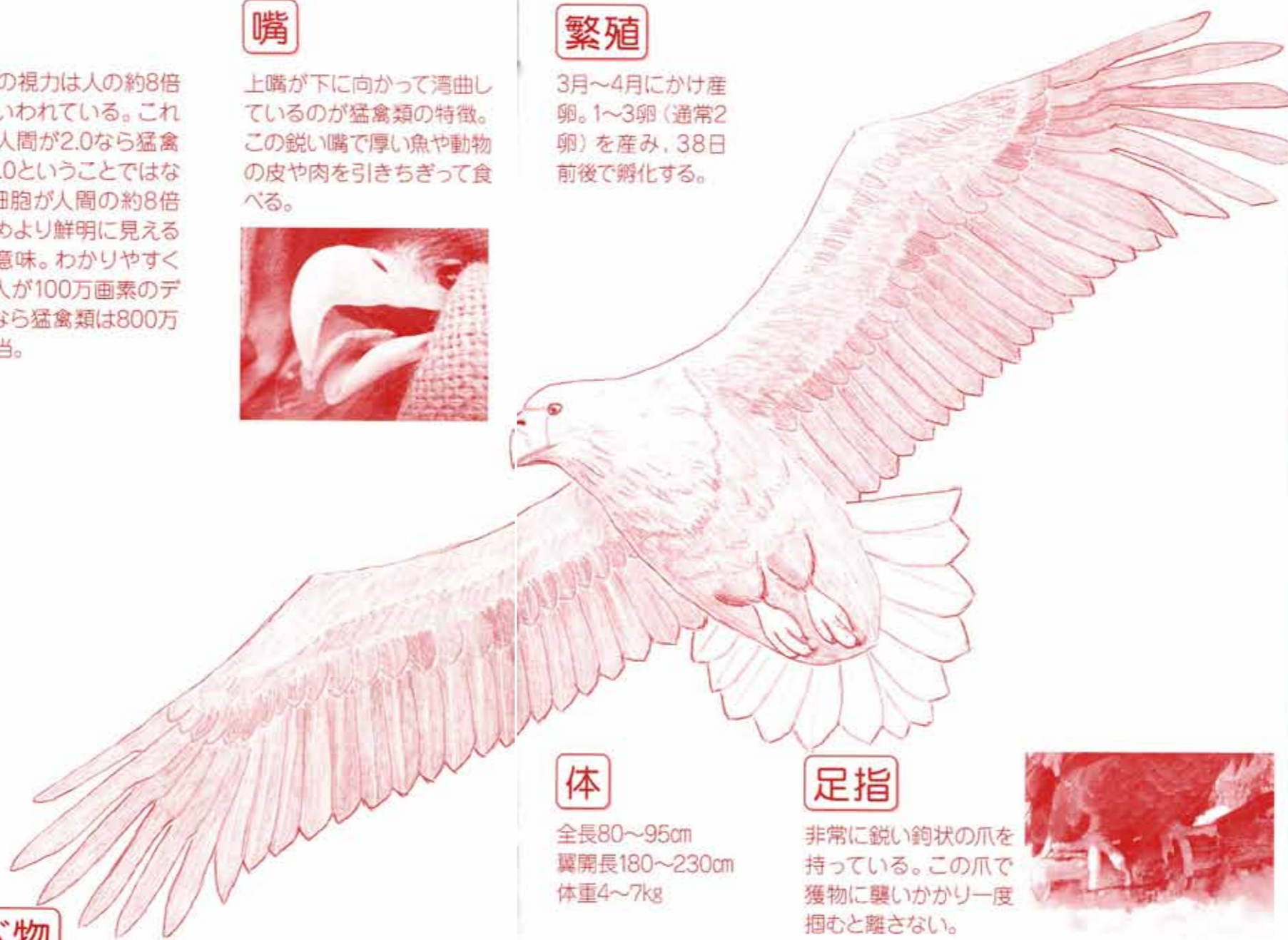
新施設のもうきん舎をチェックしよう

この春にオープンしたばかりのもうきん舎。施設には池、小川、木、笹などがあり北海道の森の中をイメージしています。現在2羽のオジロワシがいて北海道の自然の中を大きく翼を広げ飛んでいるような姿を見ることができます。また、池には不定期で魚を放しており、オジロワシが魚をハンティングする、迫力ある瞬間が観察できるようになっています。1日に食べる量は決まっているので、いつでもハンティングの瞬間を観察できるわけではありませんが、新しい施設にも慣れてきているので、じっと観察していれば、ご覧いただけると思います!



繁殖

3月~4月にかけ産卵。1~3卵(通常2卵)を産み、38日前後で孵化する。



体

全長80~95cm
翼開長180~230cm
体重4~7kg

足指

非常に鋭い鉤状の爪を持っている。この爪で獲物に襲いかかり一度掴むと離さない。

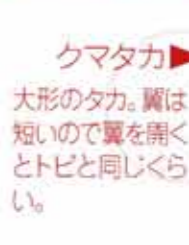


旭山のワシ・タカたち

オジロワシ▶
8羽すべて保護個体。



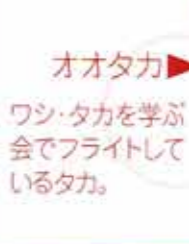
◀オオワシ
オジロワシと同じく大形のワシ。



クマタカ▶
大形のタカ。翼は短いので翼を開くとトビと同じくらい。



◀チゴハヤブサ
ゆっくりロードで展示している小形の猛禽類。[夏期のみ展示]



オオタカ▶
ワシ・タカを学ぶ会でフライトしているタカ。

園内で野生のオジロワシが!!

冬になると旭川でもたびたび河川や山で、または飛翔しているオジロワシを見ることができます。2年ほど前の冬、オランウータン舎の裏でもオジロワシを見ることができました。動物園の隣にある旭山にはオジロワシがしばしば飛来しているのですが、まさか園内で見れるとは...今でもあの興奮を思い出します。おそらく旭山に来ていた個体が園内で飼育しているオジロワシの鳴き声に引き寄せられて来たのだと思います。皆さんの意外と身近なところにもいるかもしれませんよ。

特集 あさひやま解体新書
 その④ **あさひやま水族館へようこそ!**
 旭山解体新書
 萬平師匠新譯
 株式会社アドスエニシ製本

ペンギン館・あざらし館・ほっきょくぐま館の3施設には小型の水槽があり、タコやクラゲ、魚類などの水生生物を展示している。各館内は照明を抑え、水生生物を展示することで「流水の下の世界」を再現しているのだ。
 今回はこれら水生生物について、それぞれの担当者から紹介していただく。

ペンギン館水槽 担当:田中千春

ペンギン館には3つの小さな水槽があります。沖縄の海、オーストラリアの海、インド洋の海をイメージした水槽で、岩礁やサンゴ礁などの暖かい海に棲む生き物を展示しています。岩礁やサンゴ礁には、様々な種類の魚がひしめき合っています。魚たちはその中から仲間を見分けるために身体の色がカラフルになったといわれています。ペンギン館ではクマノミやスズメダイなどの魚類の他、イソギンチャクやヒトデなど色とりどりの生き物がくらしています。
 ほ乳類のの体の模様も神秘的ですが、魚の模様もまた不思議だなあ!と思います。そのほんの一部でしかありませんが、ぜひ覗いてみてください。



クマノミと巨大なイソギンチャク。



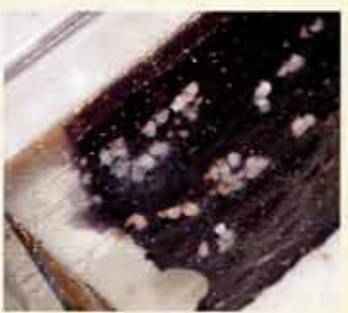
裏側。担当者もここで癒されているとか。

あざらし館・ミズクラゲ水槽 担当:杉村尚美

ミズクラゲの寿命は短く、長くても半年です。一年を通して展示することは難しく、常にクラゲを増やしていかなければなりません。そのためバックヤードでは繁殖の努力をしています。
 また水流も大事です。クラゲは遊泳力が弱く、水槽の中で上手に水流をつくってあげないといけません。水流が強すぎると傘が破れてしまうし、逆に弱すぎると底に沈んだままになってしまいます。
 夏には新しい個体を海で採集してきます。通りすがりの人に「クラゲなんかとってどうするの?」と聞かれたりもします。時には大量発生して迷惑もののクラゲですが、詳しく知るととても魅力的な生き物です。時間のある方はじっくり観察して、癒されてみてください。



幻想的なミズクラゲ。手描き看板にも注目。



裏側で繁殖中。ほんとに不思議な生態だ。

あざらし館・ミスダコ水槽 担当:木下友美

みなさん知ってましたか?あざらし館にミスダコがいることを。クラゲの隣。ちょっぴり暗いその水槽...そう!そこにひっそりミスダコがいるのです。
 「なーんだタコか!」なんて言わないでよ〜く観察してみてください。たとえば体の色は何色でしょう?落ちていているときは白っぽく、人が突然近づいたりすると赤色に。タコは身体の色を自由自在に変えることができるのです。時には身体の半分が白、もう半分が赤、なーんて2色になることも。
 ガラスにはりついている時は、タコの吸盤までぼちり見ることができます。水槽周りのパネルもぜひ読んでくださいね。知っているようでよく知らない。タコの事が少しわかるかも...!?



箱に身を潜めるミスダコ。



給餌の時は水面に来る。意外と?賢い。

あざらし館・ギンザケ水槽 担当:高山太輔

ギンザケは北海道には遡上しませんが、比較的成長が早い日本でも海面養殖されている魚です。コンビニ用のサケとして使われることが多いので、皆さんも一度は食べたことのある魚だと思います。
 野生での生息域が重なるゴマフアザラシとギンザケ。きっと野生のゴマフアザラシもギンザケを捕食していることでしょう。
 現在、アザラシ(北海道ではゼニガタアザラシ)による漁業問題が深刻になっています。魚網を破ってしまったり、網の中に入っている魚を食い荒らしたりと、アザラシは、漁業の邪魔をする害獣とされています。
 本当にアザラシだけが悪いのでしょうか?海の恵みは私たち人間だけのものではないはず。



ギンザケ水槽。アザラシマリノウェイと並立している。



「1mまで育てたい!」という担当者。

ほっきょくぐま館水槽 担当:南川朝美

ホッキョクグマ館内、イワンが泳ぐプールを過ぎた先の、薄暗い通路にこの水槽があります。「つめたいうみのすいぞくかん」というテーマで、主に冷たい海にすむ魚を11種27匹(10年7月現在)飼育しています。スーパーでもよく見かけるカジカやソイをはじめ、フサギンボやエソクサウオ、ナメダゴなど水槽を覗いてみるとたくさんの魚たちに出会えます。夏期は結露で見づらいことがあるので、水槽前に置いてあるタオルでそっと拭いてからのぞいてみてください。
 また、主に冬期間の展示になりますがハダカカメガイ(通称クリオネ)も、ここ5~6年は毎冬数匹展示していますのでお楽しみに!
 これからも、魚についてより深く皆さんにお伝えすることができるようがんばっていききたいと思います。



カキ殻に引っつくナメダゴ。



クロソイ。他にもたくさんの魚たちが。

今回ご紹介した水槽の生物たちは、ペンギンやアザラシほどは注目されていないかもしれない。でも担当者にとっては同じ飼育動物であり、優劣無く飼育している。

あらゆる生命の祖先は海で誕生した。海のない旭川市だからこそ、市民のみなさんに海の生物を見ていただきたいという思いもある。アザラシやホッキョクグマが生きていけるのも、雄大な海の生態系があるからこそなのだ。みなさんも、あさひやま水族館で海の生物の神秘に触れてみてはいかが?



こども牧場だより



「こども牧場のヒツジたち」

現在、こども牧場ではサフォーク種の「サリー」と「うるる」、ポールドーゼット種の「かれん」とその子どもの「しし丸」の計4頭のヒツジたちが暮らしています。「しし丸」以外は平成20年に士別市の「世界のめん羊館」より入園しました。入園当時は先住者のサフォーク種「ポリー」がいて、新入りたちと仲良くできるか？心配していましたが、一線を引きながらもどうにか一緒に過ごすことができました。

「ポリー」はいつも飼育係のそばにいたり、呼べば近寄ってきてくれるとても人なつっこい性格でしたが、新入りの「サリー」と「うるる」は私たちが近づくとサッと逃げていくとても警戒心が強い？頭でした。

「ポリー」が亡くなり2頭の性格も少し変わるかと思いきや、餌の時は近寄ってきますが、少しでも体に触ろうとすると相変わらず逃げていき「まだまだ信頼関係はできていないなあ…」と実感しました。「どうにか近づいても触っても逃げられない関係を作りたい！」これには理由があります。

月に1回、健康管理のための体重測定を行っており、大きな体重計に動物を載せなくてはなりません。馴れた個体はスムーズに誘導されすぐに終わる作業ですが「サリー」と「うるる」はそうはいきません。体重計を準備している段階からパタパタ走り出し、近づくとダッシュで逃げ回りそこから鬼ごこの始まりです。体当たりされ駆け回る者、つかんだは良いがズルズル引きずられる者、もう大騒ぎです。これでは動物も飼育係も怪我をしたり、動物にストレスを与えるなど良いことなしです。さて、どうしたものか…？

まずは人に馴らすこと。手渡しで餌を与えたり、食べてる時に体を触るなどいろいろ試し、最近やっと近づいてもあまり逃げなくなり、掃除中には向こうから寄ってきたりと、「少しは溝が埋まってきたかな！」という感じで、ふと、亡くなった「ポリー」を思い出させます。今後はもっとヒツジたちとの距離を縮めて、呼べば来てくれるような関係を築いていけたらいいなあ…と思っています。そしていつまでも元気で、健康でいてほしいと願っています。

今春、口蹄疫の影響でヒツジの放飼場は閉鎖していましたが、9月初旬に規制解除になり、またヒツジたちにふれあえるようになりました。ぜひ会いに来て下さいね。

(こども牧場・ワビチ担当：阿部千佳)



①追いつめて…



②ゲット!!



③エサでつったりして…



④無事測定中!



地球のお医者さんのカルテ

—The Earth's Karte by a Wildlife Vet—

カルテNo.3 一つの地球、一つの健康

キーワード:人、家畜・ペット、野生動物、地球、保全医学、生物多様性

今や国内外から注目を集める旭山動物園は、多くの人々に命や野生動物の尊さを伝える機会が増えています。当園は、開園以来これまでに、野生動物との共存や保護を訴える多くのメッセージを発信し続けてきました。そのメッセージがいずれ社会全体に浸透し、様々な野生動物問題や環境問題が解決されることを熱望しています。

いずれ…

しかし、今の世の中は、チンパンジーに洋服を着させて犬を連れて散歩や買い物させたり、タレントがペンギンやナマケモノなどの野生動物を家で飼って人のように扱ったり、野生動物を擬人化しておもしろがるテレビ番組が流行っています。幼少期に親から離されて人に育てられた動物は、群れに戻れなかったり、正常な繁殖行動ができなかったり、その種の保存に役割を果たせなくなる場合があります。成長するにつれて群れにも戻れず、力が強くなり人とも一緒にいられなくなってその後の生活の質が損なわれてしまうこともあります。また、ハクチョウやキツネなどの野生動物に餌付けをして楽しむなど多くの人が野生動物をペットと同一視しています。餌付けされて人慣れた野生動物は、人に近づくようになり、最後は交通事故に巻き込まれたり、逆に人を襲ったり、あるいは感染症を広げたり、お互いが不幸になる可能性があります。

刻一刻と拡大する自然環境の悪化や人と野生動物とのトラブルを目の当たりにすると、「世の中ってなかなか変わらないなあ…こんなに多くの人が旭山動物園を訪れ、看板を読んだり、話を聞いて行ってくれているのに…」特に、冬にハクチョウの渡りシーズンが来るとその飛来報道を号砲に市民が一斉に餌やりに向かうという自然との接し方や餌えなくなったペットを逃がして野生化させたアライグマなどの外来種問題の広がりなど身近な地域の問題に触れ、もやもやとした晴れない気分は日増しに強くなりました。そこで、次第に私は「伝える」だけでは時間の効率が悪いなあと感じるようになりました。

「伝え続けていれば、いつかは世の中が変わるだろう。でも、いつになるかわからない。社会が少しでも変わった姿を自分の目で見てみたい、いや変えてみたい…」そして、「伝えるだけじゃ足りない!そうだ、汗を流して行動していこう!」と一念発起し、2008年6月22日、人も野生動物もお互いが快適な環境と社会をつくることを目指す市民勉強活動組織「人と野生動物の関わりを考える会」を設立しました。カモ・ハクチョウ類への餌付け問題を一つの素材として、地域の河川環境を利用する市民が中心になって、専門家、研究者、行政など皆で意見交換して考え、ルールを作っていくと活動しています。これまでに、野生動物への餌付けが及ぼす影響をイラストでわかりやすく説明してその中止を訴える看板の現場設置(飼育係の白木デザイン)、自然観察会、野外で外来種ヒキガエルを捕獲して学ぶ勉強会、小学校への出張授業、餌台で広がった感染症によるスズメの集団死の調査などを行ってきました。野生動物に干渉せず、それでいて無関心でなく、思いやりを持って「一定の絶妙な距離感」で見守れるように社会を変えていきたいと思っています。

近年、国内でも高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫など海外で流行している感染症が問題になっています。人が運んできたのが、野鳥なのか、進入経路は不明ですが、感染症に国境はないということです。ヒトや家畜の健康を守るためには、野生動物の生態も診ていかなければならず、私たちすべての生き物を育む自然環境を健康に保っていく必要があります。今、世界では「保全医学」という分野に注目が集まり、また「One World, One Health」(一つの地球、一つの健康)という概念が提唱されています。主に人為的な環境変化(森林伐採や温暖化など)と、それに関連する感染症や汚染物質による健康問題を人間だけでなく、家畜、野生動物、生態系(地球)全体の健康問題として捉え、各分野の専門性を結集させ、地球規模で解決していく必要性が唱えられ始めています。

一つの地球でヒトも野生動物も健康に暮らすために人はどうすべきか?

人と野生動物が仲良く共生することを求めたいのではなく、野生動物が私たちのそばにいてもいいかな、これくらいの関わりだったら卒拍できるかな、という感覚が芽生えればよいのだと考えております。たくさんの命が暮らせる地球環境が豊か(生物多様性)で、人は地球からのサービスを受け続けられるということを意識しておく必要があります。

地球は水と空気、そして人でつながっています。まずは、身近なことから、自分にできることから、コツコツとやっつけていけばよいのだと思います。

(獣医師:福井大祐)



2009年冬に餌台で広がった感染症のため集団死したスズメの死体



カモ・ハクチョウへの餌やりを楽しむ家族



主なできごと

《2010年》

- 5月30日 エゾシカ農園(1回目)
- 5月31日 キングペンギンふ化
- 6月2日 シロテテナガザル「シラコ」出産
- 6月5日 イフトピペンギンふ化
- 6月13日 ヒツジの毛刈りエゾシカ農園(2回目)
- 6月14日 キョン出産
- 6月26日 障害者夜間開園
- 6月27日 エゾシカ農園(3回目)スズメ・カラスを学ぶ会
- 7月1日 開園43周年記念日
- 7月6日 飼育勉強会「フクロウ豆知識」(佐藤伸)
「作業工具の取り扱いについて」(高橋伸)
- 7月11日 フクロウ観察会
エゾシカ農園(4回目)
- 7月16日 コノハズクふ化(自然)
- 7月22日 ジェンツーペンギンNo10死亡
- 7月24日 ホッキョクグマ「コユキ」死亡
- 7月25日 エゾシカ農園(5回目)
- 8月1~3日 第35回サマースクール
- 8月7日 エゾシカ農園バスツアー(富良野)
- 8月8日 エゾシカ農園(6回目)
- 8月7日~8月22日 鳴き虫展
- 8月11~15日 夜の動物園
- 8月15日 昆虫を探す会
- 8月17日 キングペンギンふ化
- 8月22日 エゾシカ農園(7回目)
- 9月1日~10月17日 北海道の外来生物の現状展
- 9月1日 ジェンツーペンギンNo28死亡
- 9月5日 エゾシカ農園(8回目)
- 9月18日 ジェンツーペンギンNo24死亡
- 9月19日 エゾシカ農園収穫祭(最終回)
- 9月22日 飼育勉強会「餌・給餌量について~イフトピペンギン編~」(南川)
「熱中症の予防と応急処置」(畠山太)
- 9月26日 シロテテナガザルの仔命名式命名「マモル」
- 10月10日 木の実・落ち葉を探す会
- 10月10・11日 「知床ヒグマわくわくウィークエンド2010」
- 10月17日 わくわくゲーム大会、夏期開園終了
- 10月18日 市民感謝無料開放日



命名「マモル」



サマースクール



キングペンギンのヒナ

編集後記

今年もサマースクール・夜の動物園・外来生物展・開園クイズラリーと、夏のイベントはすべて終わりました。相変わらず若手だらけの飼育係ですが、毎年経験を積み少しずつバージョンアップできているつもりです…みなさんにはどのように映っているでしょうか？

冬期はお見せできない動物がいる一方で、冬こそ注目すべき動物たちもいます！夏バテしていたオオカミたちは元気に駆け回ります。ホッキョクグマのメスは産室に入り出産に備えます。ホッキョクギツネやキングペンギンを雪の上で飼育できるのも北海道だからこそ。冬のあさひやまもお見逃しなく！（大西）

モユク・カムイ No.78 平成22年11月7日

発行所 旭川市旭山動物園 〒070-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
 発行 坂東 元 <http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/eshi/yanagoo/>
 編集委員 中田 真一・嵐山 淳・大西 敏文
 佐賀 真一・田嶋 純子・大内 章広
 印刷 株式会社アドス・エージェンシー
 〒070-0042 旭川市中常盤町1丁目 ☎0166-22-2794

飼育動物数 (平成22年10月末現在)

哺乳類	45種	250点
鳥類	73種	447点
爬虫類	8種	21点
合計	126種	718点